

課目:スーパービジョンⅢ グループスーパービジョン
個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・助言1～

共通② レジュメ

準備① 会議のルール作り

～参考例～

- ・傾聴の姿勢を持つ
- ・発言者の意見を否定や批判しない
- ・事例検討に使われた事例・資料の内容は、一切公開や口外はしない(守秘義務)
- ・役割分担(スーパーバイザーの選出を中心に)

準備② 事例シートの作成

1. 事例提供者の情報
2. 提出理由
3. 事例のタイトル
4. 検討したい課題
5. 事例対象者の情報
6. 支援を開始した経緯
7. 相談内容
8. 事例の概要

スーパービジョン演習 事例シート											
担当介護支援専門員名：(イニシャル)			所属：居宅		実務経験： 年		基礎資格：				
スーパービジョンに出したい理由											
事例のタイトル											
検討したい課題											
事例対象者の情報		氏名（イニシャル）					男・女	年齢	歳		
世帯状況：独居・() 人家族					健康状態						
生活歴・家族状況(ジェノグラム)					既往歴						
					現病歴						
					要介護度			障害高齢者の日常生活自立度			
					自己負担割合			認知症高齢者の日常生活自立度			
					被保険者情報		医療保険				
年金等											
身体等障害手帳											
その他											
ADL				IADL							
利用中のサービス				経済状況							
利用者・家族の意向及び目標											
支援を開始した経緯等											
相談内容											
事例の概要（支援経過の要約）											

事例シート作成時の留意点

援助者として

個人情報の
保護

利用者の
尊厳保持

バイジーとして

事実と主観の
区別

情報提供者の
区別

スーパーバイザーに必要な視点とスキル

(1) バイジーが焦点

☞ 事例より、まずバイジーの思いを聴く

(2) 検討課題の明確化

☞ バイジー自身のニーズと課題を整理していく

(3) 協働関係を重視

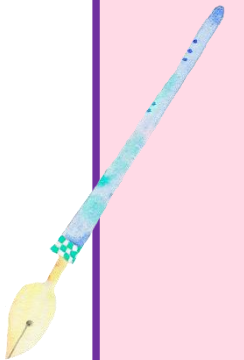
☞ バイジーとは対等な協働関係であることを意識

(4) バイジーを評価

☞ 実践に繋がるようバイジーのストレングスに着目

(5) “気づき”の尊重

☞ バイジーの成長過程の大切な局面



本研修における グループスーパービジョンのプロセス

事例説明

一問一答(見立て)

検討課題の整理

支援計画(手だて)

気づきの発表

事例検討における役割

- ・事例提供者（スーパーバイジー）
- ・司会者（スーパーバイザー）
- ・記録
- ・タイムキーパー
- ・参加者

それぞれの役割における視点

- ・事例提供者（スーパーバイザー）

事例報告と共に、参加者との質疑応答により気づきを得て、自己覚知する。

- ・司会者

進行管理と時間管理の中で、時には発言を促す。参加者からの不適切な発言から事例提供者を守る役割もある。

- ・スーパーバイザー

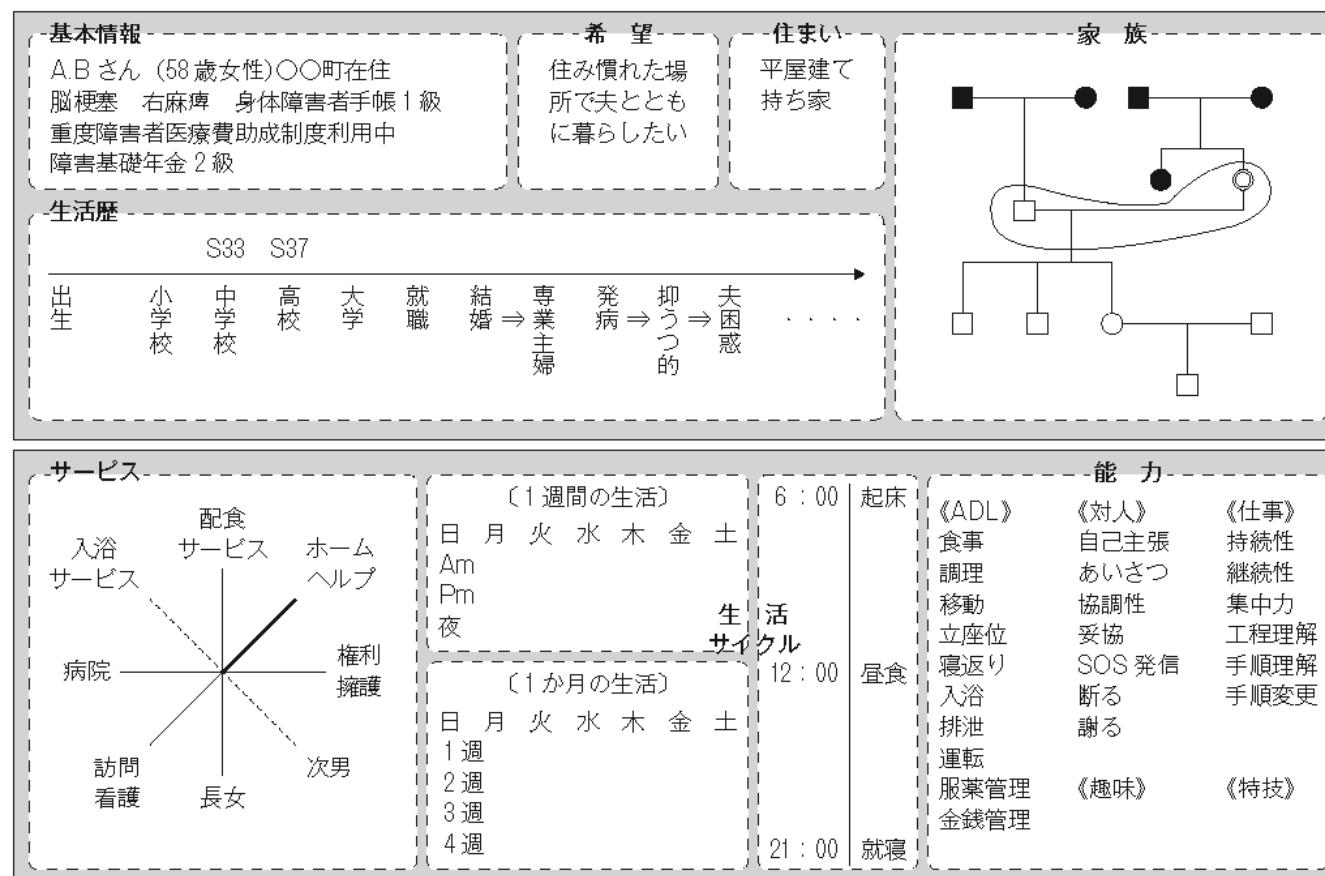
バイザー自身のアセスメントを前提に、メンバー全員の役割を確認しながら関与していく。

- ・参加者

「気づき」を意識した質問することで事例提供者に再考を促す。スーパーバイザーの役割も果たす。

ホワイトボードの活用例

図7-2 ホワイトボードの活用例



事実

アセスメント
内容

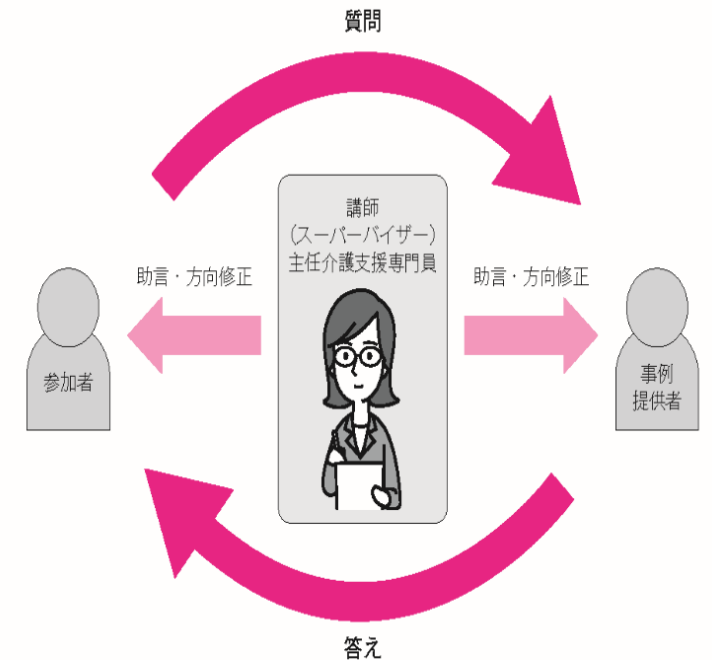
出典 野中猛『多職種連携の技術——地域生活支援のための理論と実践』中央法規出版、96頁、2014年

何故、一問一答なのか

- ①複数の質問は、
- ・質問の焦点がぼやける
 - ・事例提供者が混乱により論点が逸れる可能性がある。

- ②「質問」と「答え」は循環する
ほど効果が上がる。
循環により、参加者全員が事例のイメージを共有。
⇒『グループダイナミクス』による効果

図9-4 一問一答による「質問」と「答え」の循環



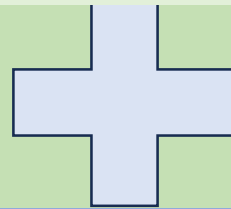
「検討(支援)課題の整理」

「検討(支援課題)の整理」 \geq 「支援計画」

- * ケアマネに対するアセスメントとして捉える
- * 「事例理解」「課題の本質」を見極めるための整理
- * 「検討課題」の明確化により、事例提供者の「気づき」が得られたら、ここがゴールとなる。

「課題抽出」のポイント👉

- (1) バイジーの自覚している課題(問題意識, 目的意識, 自覚)
- (2) 可視化による情報整理で新たに見出された課題(気づき)
- (3) バイザーが把握した課題(問題意識, 育成課題)



「利用者の強さ・思考」
「利用者自身が持っている資源」

課題解決力の
原点となる

(1) バイジーの自覚している課題 (問題意識, 目的意識, 自覚)

問題意識

タイトルに
事例提供者が捉えている課題が
隠れている場合がある

目的意識

様式8

令和5年度 埼玉県主任介護支援専門員

「グループSVに」

担当介護支援専門員名:		所属
スーパービジョンに出したい理由		
事例のタイトル		
検討したい課題		
事例対象者の情報	氏名(イニシャル)	
世帯状況:	人家族	
生活歴		

(2) 可視化による情報整理で新たに見出された課題(気づき)

◆可視化することで、**不足部分**が見える。

◆エコマップでの環境の「見える化」

⇒その領域の関係性が希薄であることや情報収集が出来ていないカテゴリーが明らかになる

◆一問一答で「**分からない**」との回答も大切な情報

⇒「必要な情報を把握出来ていない」背景にケアマネジメント上の課題はないかを確認

(3) バイザーが把握した課題 (問題意識, 育成課題)

◆一問一答でのバイジ－の回答に着目する

⇒「必要な情報を適正に把握できているか**バイジ－の力量**を見極める

◆バイジ－が自覚する「課題」とバイザーの考える「課題」のすり合わせ

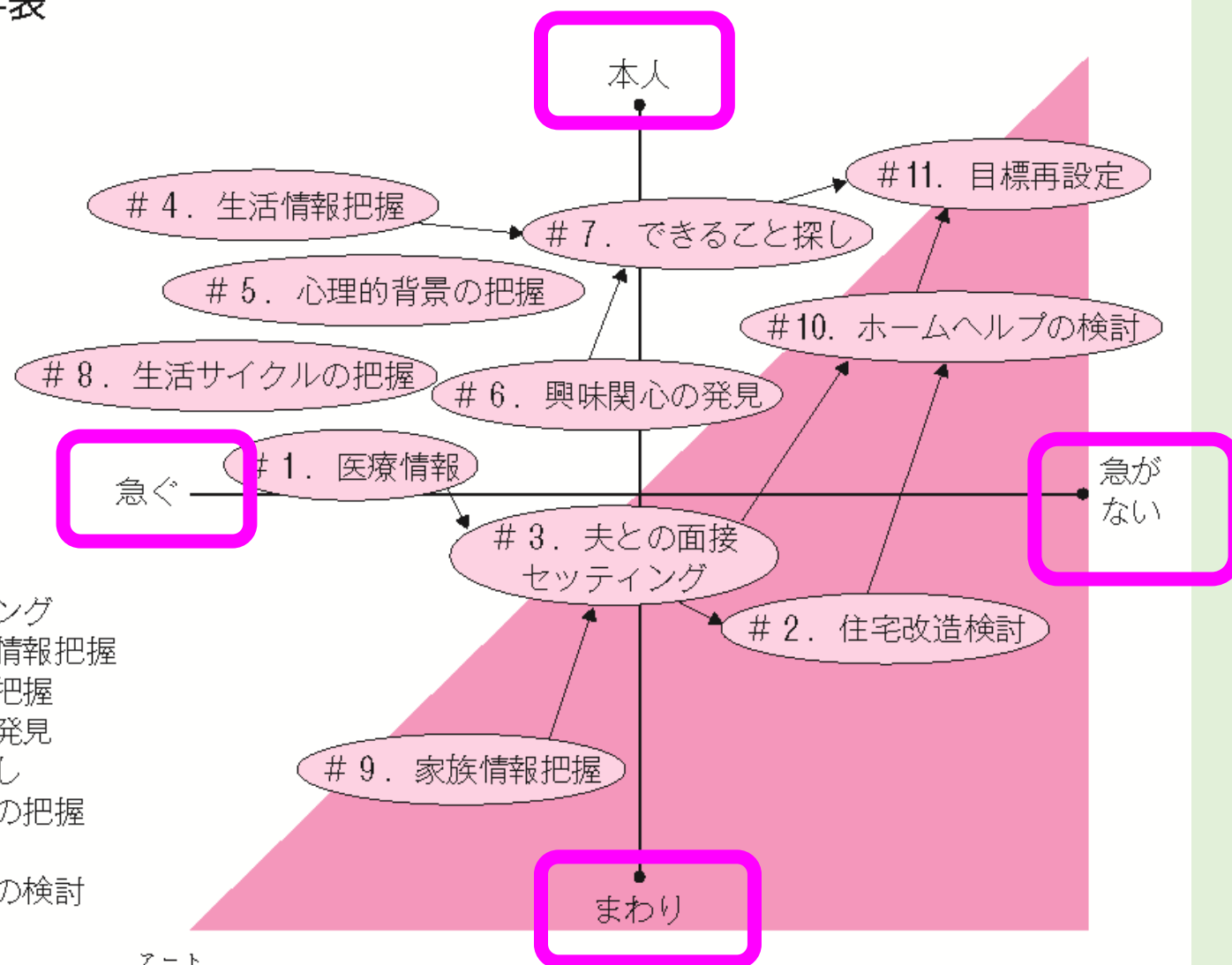
⇒バイザーの問題意識と「ケアマネジメント上の課題」の**合致と相違を整理**する

図7-3 十文字表

通称「十文字表」
横軸は時間軸、縦軸
は空間軸
提案された支援内容
の断片を整理してい
くツール

【支援内容】の例示

- # 1. 医療情報確認
- # 2. 住宅改造検討
- # 3. 面接セッティング
- # 4. 健康時の生活情報把握
- # 5. 心理的背景の把握
- # 6. 興味・関心の発見
- # 7. できること探し
- # 8. 生活サイクルの把握
- # 9. 家族情報把握
- # 10. ホームヘルプの検討
- # 11. 目標再設定



出典 野中猛『多職種連携の技術——地域生活支援のための理論と実践』中央法規出版、97 頁、
2014 年

「気づき」を得る意味

事例検討の結果の共有として、バイザー自身の考察や「気づき」を言語化

効果

1. これまでに無かった新たな視点を得ることでの成長
_____例えば・・・ 利用者や状況の捉え方や理由の客観視、
業務の癖やパターンの自覚の促進、
他のメンバーとの発想の違い(比較)など
2. 不安解消と自信に繋がる

各プロセスにおけるスーパーバイザーの視点

事例説明

事例提供者の「事例の提出理由」「検討してほしいポイント」が明確になっているか

一問一答(見立て)

質問は「どうしたら気づきがあるか」を念頭に、根拠を持った質問をしていく

検討課題の整理

ケアマネジメント上の検討課題を明らかにして、参加者全体で共有する

支援計画(手だて)

利用者支援計画(ケアプラン)ではなく、ケアマネ自身の行動計画の提案を促す

気づきの発表

言語化することで決意表明にもなるため、ケアマネ自身の気づきをしっかりと確認をする